# 創立60周年

## INTERVIEW

## 迅速な対応と集中投資で実用化を

日本発明振興協会会長
**原　昭邦氏**
（白寿生科学研究所社長）

目まぐるしく変わる経済情勢の中、安倍晋三内閣が策定した成長戦略では「イノベーション」がうたわれ、発明振興の重要性はますます大きくなっている。そんな年に創立60周年という節目を迎えた協会のこれまでとこれからについて、原昭邦会長に聞いた。

◇　◇

―半世紀を超える歴史を振り返り、どんな印象を持たれていますか。

「高度経済成長の時代は企業に勢いがあり、それが協会の勢いそのものだった。身銭を切ってでも協会を盛り上げようとする気概のある人が多く、1965年に大屋敦会長が『これからは外国の技術に憧れるのではなく、日本の発明を世界に提供しなくてはならない』とあいさつしたのに感激したことを覚えている。ただ今は協会とのつながりが浅く、協会の変遷や歴史など、過去について知る人が減ってきた。親の代から付き合いがあり、協会に思い入れのある人に次を担ってもらえればいいが」

―多くの中小企業と同様、世代交代が一つの課題ですね。

「これまでの協会運営は思い入れの強い方々による寄付で成り立ってきたが、これからは寄付という形で賄うのは難しいかもしれない。収益構造を転換する必要があるだろう」

―グローバル化が進み競争が激化する中、発明を成功につなげるには何が必要でしょうか。

「昔は発明があれば一つは成功できたが、これからはそれだけでは難しい。何か社会やニーズなどの大きな流れが来た時に、どう対応するかが大切になるだろう。迅速な対応に加え、資金をどこに集中投資するか見極めて、発明から実用化までを一気に立ち上げなければモノにはならない。また一発明家のアイデアに別の技術を組み合わせる必要がある。一つの技術を短期で花開かせるには会員同士の連携や、大学との協力が欠かせない」

―そのような社会に向けた協会の展望は。

「まずは一般開放講座などを開催して会員以外にも認知度を上げ、裾野を広げる努力をしたい。そして大学と会員をつなぐ方法や、会員同士がコラボレーションするような体制を整える。今は第三次産業革命とも言われる。省庁とも連携しつつ能力を持った人を仲間に加え、絶えず先端技術の動向を握って協会の存在価値を高めたい」

中堅・中小企業の発明振興や育成を目的として設立された日本発明振興協会が、5月28日に創立60周年を迎えた。戦後の高度経済成長を経て、経済活動はグローバル競争や大量製造・大量消費社会からの脱却など、新たな段階へと進んでいる。アイデアを盛り込んだ魅力的な製品や技術など、発明の重要性は高まる一方だ。戦後の時代とともに歩み、設立以来さまざまな場面で発明を支えてきた同協会は、公益財団法人として今後どう飛躍していくのか。これまでの歩みを振り返りつつ、未来の姿を描き出す。

## 発明推進へ多彩な事業

### 創造力の育成など支援

日本発明振興協会は中堅・中小企業や次世代の担い手となる子どもたちを対象に、多彩な事業を展開している。あらゆる側面から発明の推進や創造力の育成などを支援するのが狙いだ。代表的な事業は三つ。

**発明大賞**

**中小企業の発明に光を当てる**

「発明大賞表彰」事業は独創性に富む発明によって優秀な技術・製品を生み出した中堅・中小企業や個人を表彰するもの。その功績を広く一般に紹介して発明の推進を図ることを目的に開始した。1975年に創設、毎年募集を行い、今年で39回目を迎える。発明大賞をはじめ、発明功労賞、考案功労賞、発明奨励賞の4賞、全26件を表彰する。応募期間は7月―9月で、学識経験者による審査委員会および必要に応じて現地調査を行い厳正に審査する。受賞事例には誰もが思いつかなかったようなアイデアを生かした〝かゆいところに手が届く〟部品や製品が並んでいる。「科学技術創造立国」を掲げる日本の基盤は、企業の99%を占めると言われる中小企業。それらの発明を発掘し、光を当て続けていくことがその実現にもつながる。

毎年4月の科学技術週間には発明大賞受賞者の業績発表となる「優秀発明発表会」も行っている。

毎年4月に行われる優秀発明発表会

**こども発明教室**

**豊かな発想力と創造力を育成**

1979年から始まった「こども発明教室」は、子どもたちにモノづくりの楽しさを体験させながら、豊かな発想力や創造力を培うのが目的。小学3年生から中学2年生までが対象で、毎年5月から12月までの期間の土曜日もしくは日曜日に、日本発明振興会館（東京都渋谷区）で開催している。普段の生活で試行錯誤しながらモノを作る機会が格段に減った現代で、発明教室は次世代の人材を育てる貴重な場だ。翌年の2月に修了式を行い、優秀な作品を表彰している。1961年から始まった「小・中学生発明工夫教室」や「創造性教室」、1966年からの「ワンパク発明学校」などの活動も引き継いでおり、それらを合わせれば半世紀以上の歴史を誇っている。保護者からは「与えられた設計図通りではなく工夫ということを覚えた」「物事を投げ出さなくなった」「いろいろな物の仕組みを調べるようになった」などという声が寄せられている。

次世代の人材を育てるこども発明教室

**発明研究奨励金**

**実用化の費用の一部を補助**

課題解決につながる優れた発明を思いついても、実用化する際に課題となるのが資金面だ。特に中小企業にとってはその負担が大きい。そこで中小企業や個人がアイデアを実用化する際に資金面で支援し、優れた発明を世に送り出そうと始まったのが「発明研究奨励金交付」事業だ。試作や試験研究に対して1件あたり100万円を上限として支援する。中小企業や個人の発明考案の試験研究で、特許・実用新案として登録済みのもの、または特許・実用新案を出願して公開され、審査請求済みのものに該当し、その実施化に助成が必要と認められるものを対象としている。これまで機械や電機、医療などさまざまな分野の発明に交付してきた。あらゆる面から日本の産業の発展に寄与することを目的としている。

同協会ではその他、指導員による「発明相談」や機関誌の発行、シンポジウムや講演会を通じて発明を後押し、支援を行っている。

### 60年の歩み

| 年 | 月 | |
|---|---|---|
| 1953年 | 5 | 優秀発明振興協会を創立 |
| 54年 | 6 | 日本優秀発明振興協会と改称 |
| 58年 | 6 | 第1回発明思想普及大会開催 |
| 59年 | 11 | 財団法人日本発明振興協会が公益法人として認可 |
| 61年 | 7 | 小・中学生発明工夫教室を開催 |
| 62年 | 9 | 機関誌『発明と生活』創刊 |
| 63年 | 4 | 第1回職場功労者表彰式を挙行 |
| 65年 | 8 | マイクロバスによる第1回動く創造性教室を開催 |
| 66年 | 4 | 関西地方本部を設立 |
| | | 第1回ワンパク発明学校を開催 |
| 67年 | 10 | 公害処理試作研究所を設置 |
| 70年 | 8 | 発明無料相談所を開設 |
| 71年 | 4 | 第1回公害処理発明プラン発表会を開催（＊1978年より優秀発明発表会） |
| 72年 | 4 | 試験研究法人として内閣総理大臣より認可 |
| 73年 | 5 | 日本発明振興会館を竣工 |
| | 8 | 特許公報閲覧室、発明考案展示室、試作研究所を設置 |
| 74年 | 1 | 創立20周年記念式典を挙行 |
| 76年 | 1 | 第1回発明大賞表彰式を挙行 |
| 79年 | 1 | 協会25年史発刊 |
| | 7 | 第1回こども発明教室を開催 |
| 81年 | 3 | 第1回発明研究奨励金交付式を挙行 |
| 84年 | 1 | 創立30周年記念式典・祝賀会を開催 |
| 85年 | 2 | 発明大賞10周年記念式典・祝賀会を開催 |
| 89年 | 9 | 「特定公益増進法人等の証明書」を科学技術庁より受領 |
| 90年 | 4 | 『発明大賞15年のあゆみ』発刊 |
| 91年 | 1 | 協会35年史発刊 |
| 94年 | 1 | 創立40周年記念式典・祝賀会を開催 |
| | | 「発明振興功労賞」「発明振興貢献賞」を創設 |
| 95年 | 3 | 『こども発明教室15年のあゆみ』発刊 |
| 99年 | 12 | 『発明研究奨励金20年のあゆみ』発刊 |
| 2003年 | 1 | 創立50周年記念式典を挙行 |
| | 5 | 協会50年史発刊 |
| 10年 | 12 | 公益財団法人に移行 |
| 11年 | 12 | 勇気ある経営に関するシンポジウムを開催 |
| 12年 | 12 | 講演会「プロダクト・イノベーションの継続的実現をめざす」を開催 |
| 13年 | 7 | 創立60周年記念式典・「発明と音楽の集い」を開催 |

## 科学技術の振興と産業の発展に貢献

**協会60年のあゆみ**

日本発明振興協会の歴史は、日本の戦後史とともに始まった。1953年5月28日に中小企業などの発明振興と発明思想の普及啓発を目的とした任意団体「優秀発明振興協会」として発足。東京都の第1回発明奨励金を受けた53人の発明家が結成したものだ。その翌年には名称を「日本優秀発明振興協会」と改称し、1959年に「財団法人日本発明振興協会」として法人化の認可を得た。2010年12月に公益財団法人の承認を受け、新法人として新たな一歩を踏み出している。

1973年には会員から多額の寄付を募って渋谷駅近くに土地を購入し、日本発明振興会館を建設した。竣工式は高松宮殿下・妃殿下ご臨席で行われた。その他、田中角栄総理大臣はじめ多数の来賓が出席した。その後はここを拠点に各種の事業を立ち上げて発明振興の推進に貢献してきた。各事業が30年を超えて継続している。

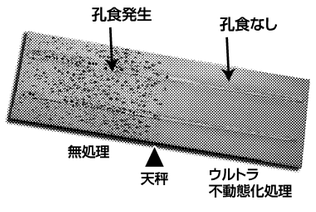
その一つである発明研究奨励金で事業化に成功し発明大賞を受賞した事例や、発明大賞の受賞を機に業績が伸びて株式上場を果たした企業も少なくない。発明の奨励と振興事業を通じてわが国の科学技術の振興と産業の発展に貢献し続けている。

開封後も鮮度を保つ新型液体容器 PID とアンプルカット
株式会社 悠心
代表取締役社長　二瀬　克規
本社・工場　〒955-0002　新潟県三条市柳川新田964番地　TEL0256-39-7007
東京営業所　〒104-0061　東京都中央区銀座2丁目8番9号　TEL03-6228-6408
http://www.dangan-v.com

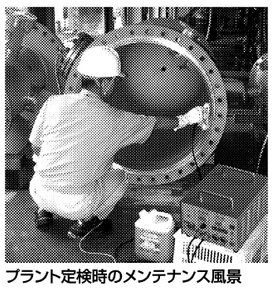
白寿グループは、
皆様の心と身体の健康生活を応援します。

ヘルストロン　Hakuju　HAKUJU HALL
株式会社 白寿生科学研究所
〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷1-37-5 http://www.hakuju.co.jp
株式会社 ベステック／白寿医療器械（蘇州）有限公司／学校法人 原学園 白寿医療学院

To Save a Tiny Baby Life
小さな生命（いのち）を救うために
最高品質の価値と安全をおとどけします。
●産科婦人科用機器●新生児小児用機器
●輸液用機器●呼吸療法用機器●診療手術器械
●看護病棟用機器●医用ディスポーザブル製品
アトムメディカル株式会社
東京都文京区本郷3-18-15　TEL.03(3815)2311大代表　http://www.atomed.co.jp

パイオニアとして飽くなき前進　ステンレス用中性電解焼け取り法に次ぐ表面改質法
■安全無害に焼けが取れ、耐塩素孔食性も改善（第1弾ヒット）
☆平成9年発明大賞福田特別賞受賞
一目瞭然
耐塩素孔食性向上に!
ウルトラ不動態化


JIS耐塩素孔食試験
■応力腐食割れ性の改善（第2弾ヒット）
☆平成23年発明大賞考案功労賞受賞
応力腐食割れ（SCC）の問題解決に!
ウルトラ不動態化

JIS応力腐食割れ試験
（A法B法ともに確認済み）
速報
SUS316L材が1日で孔食発生する塩素雰囲気中でなんと2年半の健在性が立証された!
新発売好評中
ウルトラ不動態化で耐塩素孔食性改善に続き、応力腐食割れ防止対策遂に完成!

プラント定検時のメンテナンス風景
株式会社 ケミカル山本 Chemical Research
技術相談専用フリーダイヤル
0120-304-243
■クリエイトセンター／〒738-0039 広島県廿日市市宮内工業団地1-10
TEL 0829-30-0887　FAX 0829-37-2770
http://www.chemical-y.co.jp